

第 5 章

第 5 章 学生の受け入れ

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

1) 現状の説明

【全学】

学士課程入試および修士課程・博士後期課程入試におけるアドミッション・ポリシーは、以下のとおり明示している。

【学士課程】

高知工科大学は「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」ことを目標として掲げています。この目標に賛同し、来たるべき社会に活躍できる人材になるという強い意志と情熱をもち、勉学意欲のある者を求めます。高知工科大学には、システム工学群・環境理工学群・情報学群の3学群、およびマネジメント学部があります。各学群、学部の教育の理念・目標を理解するとともに、それぞれの分野への高い関心と志望動機・目的意識をもち、本学で学ぶための基礎学力を有していると認められる者の入学を希望しています。

【修士課程・博士後期課程】

高知工科大学は「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」ことを目標として掲げています。この目標に賛同し、来るべき社会に活躍できる高度技術者・高度研究者になるという強い意志と情熱をもち、勉学意欲のある者を求めます。大学院工学研究科には、8つの履修コースからなる修士課程と3つのコースから構成される博士後期課程があります。各コースの教育の理念・目標を理解するとともに、その技術分野への高い関心と志望動機・目的意識をもち、本学の大学院工学研究科で学ぶための基礎学力を有していると認められる者の入学を希望しています。

上記ポリシーのもと学士課程入試においては、入学者選抜試験ごとにアドミッション・ポリシーを明示している。

【一般入試】

それぞれの分野を学ぶうえで必要となる基礎学力を十分有すると認められる者を選抜します。システム工学群・環境理工学群・情報学群では数学・理科の力を、マネジメント学部では外国語・日本語の力を中心に評価しますが、その他の教科の理解度が高いことも評価の対象にします。

【推薦入試】

基礎学力を修得し、勉学意欲、明確な志望動機、学びたい分野への関心の高さと適性を有すると認められる者を選抜します。

【特別推薦入試】

大学が定める特定の課外活動において特段に優れた実績を有し、入学後、勉学に励みながらその能力を更に高める強い意志をもつ者で、基礎学力を修得し、勉学意欲、明確な志望動機、学びたい分野への関心の高さと適性を有すると認められる者を選抜します。

【社会人特別選抜】

社会人経験を踏まえた明確な志望動機、勉学意欲をもち、基礎学力および学びたい分野への適性を有すると認められる者を選抜します。

具体的な選抜方法を下表に示す。

入試区分		募集人員	選抜方法等		
			学群・学部	センター試験利用	個別学力検査等
一般入試	前期日程A方式	180	システム工学群 環境理工学群 情報学群	5教科7科目	数学、理科1科目
			マネジメント学部	6教科6科目	英語、小論文
	前期日程B方式	55	システム工学群 環境理工学群 情報学群	3教科3科目	数学、理科1科目
			マネジメント学部	3教科3科目	英語、小論文
	後期日程	45	システム工学群 環境理工学群 情報学群	3教科4科目	数学
			マネジメント学部	3教科3科目	英語

※入学定員は 460 名

入試区分		募集人員	選抜方法等
特別選抜	推薦入試	180(115)	小論文・面接・提出書類の総合評価
	特別推薦入試	若干名	小論文・面接・提出書類の総合評価
	社会人特別選抜	若干名	面接・提出書類の総合評価

※推薦入試の募集人員 180 名のうち 115 名は高知県内高等学校卒

これら、本学が求める学生像およびアドミッション・ポリシーに関して、学生募集要項、受験生向けホームページなどを通じて周知しており、加えて、その選抜方法や、試験科目、前年度入試結果（受験者数・合格者数・入学者数および一般選抜における合格者の最高・最低・平均点、採点・評価基準等の情報）を入試ガイドに掲載し、必要とする基礎学力を入学希望者が把握する一助となるように提供している。

同時に学士課程においては各学群・学部・専攻別、大学院においては各コース別にカリキュラム・ポリシーを示し、入学後の教育方針および育つ人材像を明示している。

【工学部】

工学部は、平成 21 年に学士課程入学についての学生募集を、また、平成 23 年度に 3 年次編入の学生募集を停止しており、現在は、学生の受け入れを行っていない。

【システム工学群】

アドミッション・ポリシーは、選抜試験毎に全学統一で定め、明示している。

【環境理工学群】

アドミッション・ポリシーは、選抜試験毎に全学統一で定め、明示している。

【情報学群】

アドミッション・ポリシーは、選抜試験毎に全学統一で定め、明示している。

【マネジメント学部】

アドミッション・ポリシーは、選抜試験毎に全学統一で定め、明示している。

【工学研究科】

アドミッション・ポリシーは、全学統一で定め、明示している。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

【全学】

受験生に対し、学生受け入れ方針がうまく伝わっており、それが入学直後の成績に反映していると考えている。

②改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

①更に伸ばさせるための方策

【全学】

各ポリシーにストーリー性を持たせるように改善を行い、受験生が理解したうえで、最終的に本学を志望するような広報活動を展開する。

②改善方策

特になし

4. 根拠資料（大学基礎データ、刊行物、内部資料等）

- | | |
|---------------------------|------|
| (1) 平成 23 年度学生募集要項 P1 | 資料 4 |
| (2) 平成 23 年度春季入学大学院学生募集要項 | 資料 8 |
| (3) 2011 入試ガイド | 資料 5 |

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

1. 現状説明

【全学】

上述のように各種媒体を利用して募集を公表しており、公正かつ適切に学生募集が行われている。

他方、入学者選抜の実施については、入試全体の指揮・監督を行うために、学長を委員長とする「入学試験実施委員会」を組織し、その下に、入試問題を作成する「出題委員会」と、入試実施を行う「入学試験実施本部」を置き、適切な実施体制を確保している。

出題委員会では、同一問題を複数の委員で確認し、出題範囲を含めて問題の妥当性を担保し、採点においても同一問題を複数回採点することにより厳正に実施している。

推薦入試・特別推薦入試の試験科目である、小論文・面接の試験内容および採点・評価基準を公開しており、それに基づいて厳格に実施している。さらに、推薦入試・特別推薦入試における小論文の作題・採点には複数の委員が従事し、大学のアドミッション・ポリシー、各学群・学部のカリキュラム・ポリシーに沿う内容としている。また、面接においても、質問内容は学群・学部で検討したうえで決定し、同一基準で判定を行うようにしている。

入学者選抜の合否判定については、教育研究審議会において議論・検討のうえ厳正に行って

いる。また、学生募集のあり方や入試制度の検討などを常に行うために、教職協働体制の「入試センター」を常設機関として設置している。

さらに、高校教育課程の最新状況への対応、担当者を複数にする等の安全弁の確保、受験生に教員の親族がいる時の対応方針も確立しており、入学者選抜は適切に実施できている。

このように、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。

【工学部】

工学部は、平成 21 年に学士課程入学についての学生募集を、また、平成 23 年度に 3 年次編入の学生募集を停止しており、現在は、学生の受け入れを行っていない。

【システム工学群】

学生募集および入学者選抜は、全学統一で行っている。

【環境理工学群】

学生募集および入学者選抜は、全学統一で行っている。

【情報学群】

学生募集および入学者選抜は、全学統一で行っている。

【マネジメント学部】

学生募集および入学者選抜は、全学統一で行っている。

【工学研究科】

入学者選抜については、各コース単位で選抜し、面接（口頭試問を含む。学内進学者で一定の基準を満たしたものは試験を免除）および提出書類の総合判定としている。なお、最短 1 年で学位取得可能な博士後期課程・社会人特別コース入学者選抜については、「学位論文予備審査、諮問試験および提出書類」を総合して判定している。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

【全学】

学力を問う一般入試だけでなく、高い目的意識とコミュニケーション能力を問う推薦入試、特別推薦入試を採用するなど、入試種別が比較的多様であり、学力の優れた学生、スポーツに優れるなどの個性をもった学生等、多様な学生を受け入れ、スペクトルの広い多彩なキャンパスを作る制度になっている。

②改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

①更に伸ばさせるための方策

【全学】

入試区分ごとの特色を生かして、一般入試では学力重視、推薦入試では多面的評価による優れた資質の学生の受け入れをさらに進めるとともに、各入試区分別入学者の入学時および入学後の成績推移を分析し、入試制度見直しに活かす。

【マネジメント学部】

特定のスポーツ競技、英語または数学分野で優れた能力を有する学生を選抜するための A0 入試を新設する。

②改善方策

特になし

4. 根拠資料

- | | |
|---------------------------|-------|
| (1) 高知工科大学入学者選抜実施体制要綱 | 資料 52 |
| (2) 平成 23 年度学生募集要項 | 資料 4 |
| (3) 平成 23 年度春季入学大学院学生募集要項 | 資料 8 |
| (4) 高知工科大学センター規程 | 資料 48 |

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

1. 現状説明

【全学】

公立大学法人化以降の年度について、収容定員に対する在学生数およびその比率を以下に示す。募集定員は学群・学部別に、システム工学群 170 名、環境理工学群 90 名、情報学群 100 名、マネジメント学部 100 名で 1 学年の入学定員は 460 名、編入を含めた 4 年までの収容定員は 1,860 名である。収容定員に対する在籍学生総数の割合は、いずれもほぼ 1 倍を保っており、適正である。

表 入学定員と収容定員に対する在籍学生数および率

	入学定員	編入学定員	収容定員(A)	在籍学生総数(B)	B/A	在籍学生数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
21年度	460	10	1,860	1,782	0.96	519	416	360	487
22年度	460	10	1,860	1,861	1.00	497	513	419	432
23年度	460	10	1,860	2,001	1.08	493	493	516	499

また、以下の表に示すように、各学群・学部ごとの入学定員および収容定員に対する超過率もほぼ 1.1 倍前後で推移しており、適正である。

表 学士 1 年生における入学定員・入学者数および員超過率

		入学定員	入学者数	超過率
21 年度	システム工学群	170	192	112.9%
	環境理工学群	90	98	108.9%
	情報学群	100	111	111.0%
	マネジメント学部	100	118	118.0%
	計	460	519	112.8%
22 年度	システム工学群	170	190	111.8%
	環境理工学群	90	97	107.8%
	情報学群	100	106	106.0%
	マネジメント学部	100	104	104.0%
	計	460	497	108.0%

23 年度	システム工学群	170	183	107.6%
	環境理工学群	90	96	106.7%
	情報学群	100	108	108.0%
	マネジメント学部	100	106	106.0%
	計	460	493	107.2%

【工学部】

工学部は、平成 21 年に学士課程入学についての学生募集を、また、平成 23 年度に 3 年次編入の学生募集を停止しており、現在は、学生の受け入れを行っていない。

【システム工学群】

教員 35 名に対して 1 学年 170 名の学生定員を設定していることから、定員は適切であり、在籍者数も適正である。なお、平成 23 年度の 3 年次編入学生は 8 名であった。

【環境理工学群】

教員 17 名に対して 1 学年 90 名の学生定員を設定していることから、定員は適切であり、在籍者数も適正である。なお、平成 23 年度の 3 年次編入学生は 3 名であった。

【情報学群】

教員 17 名に対して 1 学年 100 名の学生定員を設定していることから、定員は適切であり、在籍者数も適正である。なお、平成 23 年度の情報学群への 3 年次編入学生は 1 名であった。

【マネジメント学部】

教員 15 名に対して 1 学年 100 名の学生定員を設定して少人数教育の効果が上がる状況を確認していることから、定員は適切であり、在籍者数も適正である。

【工学研究科】

【修士課程】

現在、教員 84 名に対して入学定員 150 名、収容定員 300 名であり、適切な定員である。

5 月 1 日時点の在籍学生数の推移としては、平成 20 年度の 313 名（収容定員の 104%）をピークに近年減少傾向にあり、平成 23 年度時点では 249 名（同 83%）である。これは修士課程への入学生がほとんど学士課程からの入学者であることと関連しており、修士課程の在学者数は平成 25 年度以降に収容定員比で 90% 台に回復傾向に転じるものと予測している。

【博士後期課程】

現在入学定員 60 名、収容定員 180 名である。

5 月 1 日時点の在籍者数の推移としては、平成 17 年度の 128 名（収容定員の 71%）をピークに減少傾向にあり、平成 23 年度時点では 78 名（同 43%）である。これは留学生数、社会人入学生数が定常化してきていると分析している。このため、平成 24 年度から、博士後期課程の入学定員を 60 名から 25 名に変更する。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

【全学】

全学レベル、各学群・学部レベル共に極めて適正な定員設定、学生受け入れ、収容定員管理

が行われている。

- ②改善すべき事項
特になし

3. 将来に向けた発展方策

- ①更に伸長させるための方策
特になし
- ②改善方策
特になし

4. 根拠資料（大学基礎データ、刊行物、内部資料等）

- (1) 大学基礎データ

（４）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

1. 現状説明

【全学】

本学では、入試センターで、入試問題の作成と採点、入学試験の実施についての検証、入試に関わる各種の分析、入学者アンケート、入学後の成績調査等を定期的に行い、入試センターおよび企画室で入学者選抜方法の検証やそれに基づく改善、広報手段の改善を検討している。募集要項、入試方法は、教育研究審議会の審議を経て組織決定している等、公正かつ適切な検証を行っている。

【工学部】

工学部は、平成 21 年に学士課程入学についての学生募集を、また、平成 23 年度に 3 年次編入の学生募集を停止しており、現在は、学生の受け入れを行っていない。

【システム工学群】

作題については、出題委員会を設置し、毎年、前年度の問題を検証し、当該年度の方針を検討したうえでを行っている。面接試験については、毎年面接試験前に学群会議を開いて問題点を示したうえで、改善に取り組んでいる。

アドミッション・ポリシーと入試制度との関係は、理想と現実をどう繋ぐかの問題に行き着く。アドミッション・ポリシーは揺るぎないが、現実はどんどん変化して行くため、受験生に対する調査、入学生に対する調査、卒業生に対する調査などによる検証を定期的の実施し、入試制度の検討を続けて行く。

【環境理工学群】

入試センターで決定された全学的な方針に従ったうえで、学群独自の検証を行い、必要な変更事項については、学群会議で検討・決定して実施している。

現行の入試制度による入学試験は 2 回しか実施していないため、それが適切かどうか今後検証する。今後の志願者数の変化とその質、入学後の成績など多方面からの解析と評価を行う。また、入学者の成績を継続的に調査し、入試区分、選抜方法の検証と改善を行う。現行入試制度 2 回分の入学者についての予備調査では、推薦入試及び一般入試での入学者の入学後学業成績に有意な差は認められなかった。これは推薦入試においても一般入試同様、十分な学力の学

生を選抜できていることを示している。

【情報学群】

入試センターで決定された全学的な方針に従ったうえで、学群独自の検証を行い、必要な変更事項については、学群会議で検討し決定している。また、各学群に任されている推薦入試の面接における質問事項などについては、過去の状況などを勘案し、出題委員が毎年見直したうえで、面接員全体のミーティングに諮り決定している。

【マネジメント学部】

入試センターで決定された全学的な方針に従ったうえで、学部独自の検証を行い、必要な変更事項については、学科会議で検討・決定して実施している。

【工学研究科】

入試センターで決定された全学的な方針に従ったうえで、各コースで検証・検討を行っている。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

特になし

②改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

①更に伸長させるための方策

特になし

②改善方策

特になし

4. 根拠資料（大学基礎データ、刊行物、内部資料等）

(1) 高知工科大学センター規程

資料 48

(2) 高知工科大学入学者選抜実施体制要綱

資料 52